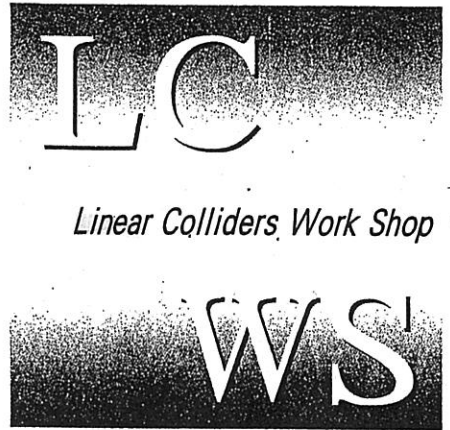


熱意 世界へ

WELCOME RECEPTION hosted by Morioka city.



ILC東北誘致で広がる夢を堂々と発表した(左から)菅原百代さん、佐藤琴恵さん、
島山豪さん、石川友萌さん、山本萌子さん=5日、盛岡市・ホテルメトロポリタン盛岡



国際学会「ニアコライダー・ワークショップ(LCWS)」は5日、盛岡市で開催した。国際ニアコライダー(ILC)計画の候補地とされる本県での開催となり、会場のJR盛岡駅周辺は熱気に包まれている。同計画を推進するニアコライダー・コラボレーション(LCC)は新体制への移行が発表され、ディレクター(最高責任者)を統括するリン・エハンス氏は日本での実現に改めて期待感を示した。アイーナでは、県などが産業や観光の魅力を発信する「いわてまるごとフェア」を開催。東北ILC準備室は企業展示会を開き、研究者を受け入れる熱意を発信する。
【本記1面】

日 報

IWATE ILC 2030プロジェクト(岩手日報社主催)のILCクラブに参加している県内の中学生5人は、LCCと盛岡市が同市盛岡駅前通のホテルメトロポリタン盛岡で開いた歓迎会に参加。8月のスイス・ジュネーブ視察などこれまでの学習を踏まえ、ILC東北誘致実現への期待を笑顔で発表した。
LCWS参加者約270人とILC誘致関係者約50人が出席。5人は英語のあいさつを交え、ILC誘致で広がる地域や自身の夢を正々堂々と語った。
奥州・水沢3年の菅原百代さんはILCの効果について「科学技術の進歩や経済効果だけでなく、世界の人々が協力していく中で、平和を守ることにもつながっていくと思」と期待。
一関・花泉2年の佐藤琴恵さんは「ジュネーブでは日本語であいさつしてもらってうれしかった。私も岩手を「もっとここにいたい」と思ってもらえる街にしていきたい」と夢を描いた。
盛岡・黒石野2年の島山豪さんも「ILCが来て盛岡が国際都市に発展してほしい。岩手や日本の誇りになるので、受け入れられるよう準備をしていきたい」と英語の勉強を誓った。
活動を通じて宇宙に興味を持った滝沢南1年の石川友萌さんは「宇宙の誕生や限界について知りたい。分

「宇宙の誕生知りたい」 中学生5人 英語交え夢を語る

からないことだらけの宇宙のなぞを解き明かしてほしい」と成果に期待した。
釜石2年の山本萌子さんは「ジュネーブの欧州合同原子核研究所(CERN)の物理学者から「教科書が全て正しいとは限らない」と聞いた時は衝撃だった」と真摯な研究姿勢に憧れ、岩手が世界の「知の拠点」となることを願った。
米オレゴン大大学院で測定器を研究しているアマンダ・スタインブルさん(23)は「元気がいっばいの報告で私たちの方が元気をもらった。2030年には、彼女たちと一緒に岩手のILCで同じ夢を追えたら素晴らしいと思う」と感激していた。
同クラブは7月に結成。同月のいわてサイエンスシンポジウム(盛岡市)参加や8月のジュネーブ訪問、9月の先端加速器科学技術推進シンポジウム(奥州市)参加、11月の連絡行事との意見交換などの活動を重ねてきた。来年は首都圏などで全国にILC東北誘致をアピールすることを予定している。
科学の力で、
岩手の明日をつくる。
IWATE
ILC
2030